

# 柚子の季節始まる 水尾柚子繁忙期



水尾を歩くとどこからともなくふんわりと柚子の香りが・・・今年も猛暑や豪雨、台風、いろいろ大変でしたが、それでも綺麗に実をつけました。十一月から水尾は柚子の収穫・加工と、水尾の人々は大忙しです。



京都市文化市民局地域力推進室北部山間かがやき隊  
 宍陰・水尾地域担当 五明 昇祐  
 京都市右京区嵯峨嵯原宮ノ上町二一五 宍陰出張所  
 電話 〇七七七 四四 〇三一四

新入り隊員も柚子搾りのお手伝い。結構、搾るのって楽しいものですね。でも、柚子の実一個搾っても出てくる果汁はわずか。柚子果汁の貴重さを身を以て知りました。それに、水尾の柚子は実生だから、匂いも味も全然違うのです。

「桃栗三年柿八年」これには続きがあった。『柚子の大馬鹿十八年』、『二十四の瞳』の作者壺井栄はそう続けました。大馬鹿って教育上よろしくないなあ。実から育てる柚子はかなり年月がかかるのです。人間も同じなんです。それは・・・壺井栄はせつち、はつきりわかんかね。

## 宍陰も柚子実る

宍陰でも柚子の木が何本かあり、こちらもきれいにたくさん実りました。隊員宅の裏庭の柚子もたくさん実ったので、収穫しました。木のとげでひつかかれたような傷ができても気にせず収穫。

おかげで大量の柚子で段ボールがいっぱいになりました。料理に使ったり、柚子皮で匂い袋を作ったりしました。柚子は捨てる場所がないといえます。活用は無限大です。

## 宍陰 FC fb 更新再開！



宍陰ファンクラブページを更新を再開しました。見ただけで宍陰に来たくなるような写真や記事を掲載します。見たら「いいね！」を押してくださいね！

ページのQRコードです

## 隊員雑感

▽水尾の柚子、今年もきれいに実り、水尾を歩くと柚子の香りが漂っている。水尾は柚子栽培発祥の地と言われる。鎌倉時代に花園天皇が柚子の栽培を命じたとされている。▽花園天皇は、歌道や学問に優れた方で、自ら記した『花園宸記』は有名だ。また禅宗にも深く傾倒し、住んでいた花園御所を寺とした。これが花園にある妙心寺だ。

▽花園天皇の時代は鎌倉末期。貴族や武家が争いを繰り返していた時代だ。天皇は世の無常(情)を悟り、権力に執着する人の浅ましさを傍観し、仏教に傾倒したのでは。

▽最近の若者は「草食系」と言われる。欲はなく、世の無情さを悟っている。もともと彼らは経典ではなく漫画を読み、仏像ではなくアイドルを拜む。一方で「もつとガツガツしろ」という人たちの有難いアドバイス。そうしたら此の世の地獄を見るのでは。欲を捨てれば地獄も極楽となる。斯く言う私はまるで「僧職系」である。チーン。



# 各地でイベント 大にぎわい 「まいどおおきに！」



イベントの多い季節、あちこち人々で大賑わいです。先月二十七日の右京区民ふれあいフェスティバルでは、岩陰・水尾の方々が出店され、販売開始からまもなくして完売が相次ぎました。

四日には嵯峨野小学校の「さかのえがおワールド」に、岩陰の農家の方、そして私が水尾の柚子加工品を販売、岩陰の野菜は大人気、午前で完売でした。負けじと水尾も販売、何とか大方売ることができました。

二十五日はサンサ右京で「Love Local Love Ukyoマルシェ」岩陰の農家の方は梅干しなど加工品を販売。私も水尾の柚子加工品を販売しました。「やはり、岩陰の野菜は最高やで」「水尾の柚子はいい匂いなんじゃあ〜」と毎回大好評です。

## 秋深まり、山々の木々、色づく



岩陰も水尾も、木々が綺麗に色づいてきました。写真は岩陰の四所神社の大イチョウです。今年は豪雨や台風の影響もあって、枝が折れたり、葉が飛ばされたりましたが、それでも綺麗に色づきました。イチョウの名所として遠くから見に來られる人がいます。



## 陽暮れて 紅く映える 刈り棚田

隊員心の俳句  
(才能ナシ)

この頃は陽が暮れるのも早く、岩陰出張所前からはとても鮮やかな夕陽を見ることが出来ます。

すでに刈り田となった棚田を夕陽が赤く照らす光景を見ると、今年の暮れをしみじみと実感しますね。

## 「遺留捜査」に見覚えのある景色が・・・

十一日放送の「遺留捜査」を見てみると、見覚えのある棚田が・・・そうです、岩陰がロケ地になっていたのです。撮影は八月の終わりごろ、まだ猛暑が続いている日で、上川隆也さん、栗山千明さんらがやってきたのです。天狗伝説のある「つぐは村」ということで、設定の「あと数年で消滅する限界集落」は言い過ぎだろうに・・・。岩陰はときどきドラマや映画のロケ地に使用されています。「蒲田行進曲」や「暴れん坊将軍」でも使用されたことがあるそうです。

京都が舞台となるドラマや映画は要注意ですね！



↑ 檜原の鎧田が映っていました。

